

平成26年4月25日
自動車局

<速報>

ホイール・ボルト折損による大型車の車輪脱落事故が増加しています！

- ・平成25年度19件発生（前年度比4件増／約3割増）、2年連続増加。
 - ・昨年11月から今年3月の冬期に13件と多発、うち2件が人身事故。
 - ・2月と3月に7件と集中発生！ 積雪地域の発生率が高くなっています！
- 規定トルクでのホイール・ナット締付け等の適切な車輪の脱着作業が重要です！
併せて、日常点検をはじめとした定期点検の励行が必要です！

今般、平成25年度中の大型車（車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス等）のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の発生状況がまとめましたので公表します。（別紙1参照）

当該事故が2年連続で増加し、平成25年度も前年度比約3割増と大きく増加したことから、適切な車両管理により事故防止が図られるよう、大型車の使用者に対して、改めて注意喚起することとしました。

<発生状況>

大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故の件数は、平成16年度の87件をピークに減少傾向が続いていましたが、昨年度（平成24年度）から増加に転じ、昨年度（平成25年度）も前年度比4件増（3割増）の19件と大きく増加しており、特に、昨年11月以降では13件、とりわけ2月と3月に7件（うち人身事故2件）と多発し、憂慮すべき状況となっています。

大型車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故については、一度発生するとその影響は甚大なものとなります。

平成14年度から平成25年度までに発生した事故は392件であり、月別の発生状況を見ると2月に63件、3月に55件と、特に2月と3月の冬から初春の時期に発生が集中しています。また、地域別（使用の本拠の位置別）の発生状況を見ると、積雪地域の発生率が高い傾向が見られます。

2月と3月に発生が多くなる原因の1つとして、例年10月から12月にかけて夏用タイヤから冬用タイヤに交換する際にホイール・ボルトとナットの締結不良（締付力不足、誤組、過締等）があり、ボルトの疲労破壊が進行して数ヶ月後に集中的に折損し、車輪の脱落が発生することが考えられます。

そのため、大型車の使用者は、規定トルクでのホイール・ナット締付けを確實に行う等、
ホイールの脱着作業を正しく実施することをはじめ、適切な車両管理の徹底をお願いします。
また、日常点検をはじめとした定期点検においてホイール・ナットの脱落・緩みやホイール
・ボルトの折損等の異常の有無を重点的に点検してください。（詳しい点検整備の実施方法
は別紙2をご覧ください。）

※ ホイール・ボルト折損の主な原因は、①ホイール・ナットの締付力不足、②ホイール・
ボルト等の誤組（スチールホイールにアルミホイール用のボルトを使用する等）、③ホイ
ール・ナットの過締めと推定されています。

〈問い合わせ先〉

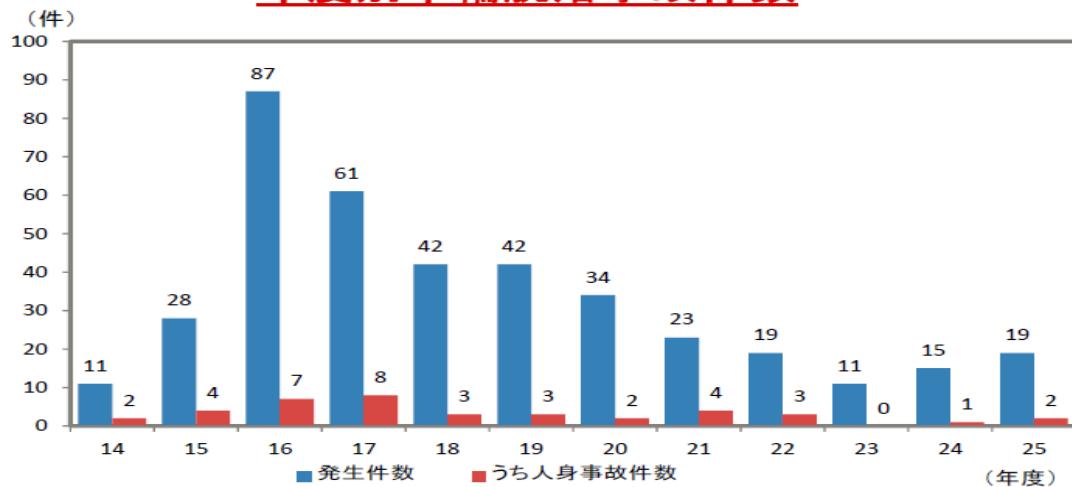
国土交通省 自動車局 整備課 山本、天野

TEL : 03-5253-8111 (内線:42412, 42415) 03-5253-8600 (直通) FAX:03-5253-1639

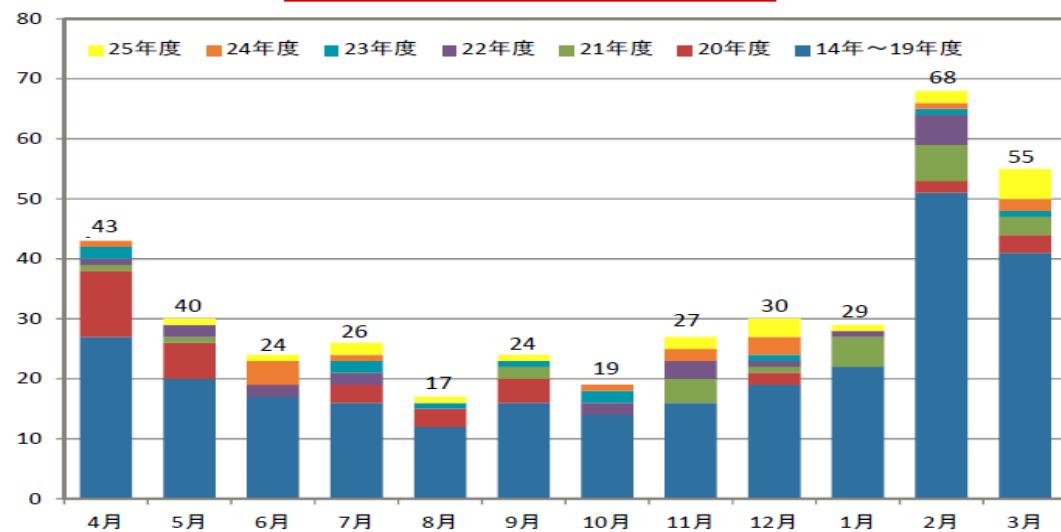
別紙1

車輪脱落事故発生状況

年度別車輪脱落事故件数



月別車輪脱落事故件数



追加された大型車のホイール・ボルト関係の点検内容

大型車：車両総重量8トン以上のトラック又は乗車定員30人以上のバス

日常点検



1 目視での点検

- ホイール・ナットの脱落やホイール・ボルトの折損はないか。
- ホイール・ボルトのまわりにさび汁がでた痕跡はないか。
- ホイール・ナットから突出しているホイール・ボルトの長さに不溝はないか。

2 点検ハンマなどを用いての点検

- ホイール・ボルトの折損やホイール・ナットの緩みがないか、ホイール・ナットの下側に指を添えて点検ハンマでホイール・ナットを叩いたときに、指に伝わる振動が他のホイール・ナットと異なったり、渾った音がしないか。

3月点検

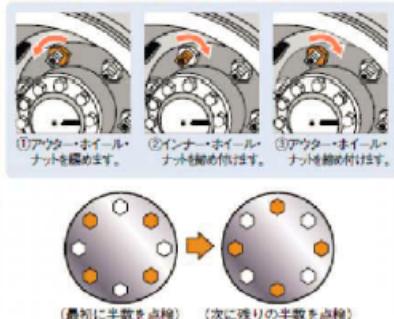
1 JIS方式のシングル・タイヤ及びISO方式のタイヤの場合

- トルク・レンチを用いるなどによりホイール・ナットを規定トルクで締め付けます。

2 JIS方式のダブル・タイヤの場合

- ホイール・ボルトの半数(1個おき)のアウター・ナットを締めて、インナー・ナットをトルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。
- 次に、締めたアウター・ナットをトルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。
- その後、ホイール・ボルトの残りの半数のアウター・ナット及びインナー・ナットについても同様の措置を講じます。

►ダブル・タイヤの締付点検手順(右側タイヤの場合)



12月点検

1 ディスク・ホイールを取りはずして行う点検

目視などにより次の点検を行います。

- ホイール・ボルト及びホイール・ナットに亀裂や損傷がないか。
- ホイール・ボルトに伸びはないか。
- ホイール・ボルト及びホイール・ナットにさびの発生はないか。
- ホイール・ボルト及びホイール・ナットのねじ部につぶれ、やせ、かじり等の異状はないか。
- ディスク・ホイールのボルト穴、歯り穴のまわり及び溶接部に亀裂及び損傷がないか、ホイール・ナットの当たり面に亀裂、損傷及びへたりがないか。
- ディスク・ホイールのハブへの取付面、ディスク・ホイールの合わせ面に摩耗や損傷がないか。

2 ディスク・ホイールを取り付ける際に行う点検

- ディスク・ホイールのハブへの取付面、ディスク・ホイールの合わせ面、ホイール・ボルト及びホイール・ナットのねじ部等を清掃し、さび、ゴミ、泥、追加塗装等の異物を取り除きます。
- ホイール・ボルト及びホイール・ナットの潤滑
 - JIS方式: ホイール・ボルト及びホイール・ナットのねじ部並びにホイール・ナットの当たり面に規定の油類を塗布します。
 - ISO方式: ホイール・ナットねじ部及びホイール・ナットとワッシャとの間にのみ規定の油類を塗布します。
- ホイール・ナットの締め付けは、対角線順に2~3回に分けて行い、最後にトルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。
- インパクト・レンチで締め付ける場合は、締付時間、圧縮空気圧力等に留意し、締めすぎないように十分注意を払い、最終的な締め付けは、トルク・レンチを用いるなどにより規定トルクで締め付けます。

3 注意事項

- JIS方式のダブル・タイヤの場合は、インナー・ナットについて、[1]ディスク・ホイールを取りはずして行う点検及び[2]ディスク・ホイールを取り付ける際に行う点検を行った後、アウター・ナットについてインナー・ナットと同様に点検を行います。

- ディスク・ホイールの取り付け後、ディスク・ホイールの取付状態に適度な剛柔みが生じる走行後(一般的に50~100km走行後が最も望ましい)とされています。）、3月点検に示す方法でホイール・ナットを締め付けます。

- 調査防止のため、ディスク・ホイールの種類(スチール製、アルミ製)に合ったホイール・ボルト及びホイール・ナットを使用してください。

検査コースの閉鎖について

日頃検査業務にご協力して頂きありがとうございます。
検査機器の定期点検及び校正を行うため、下記の通り検査コースを閉鎖いたします。
皆様のご理解、ご協力ををお願いいたします。

記

定期点検

5月15日(木)

午前**5**コース

午後**3**コース

5月16日(金)

4コース

5月22日(木)

2コース 傾斜角測定機

校 正

6月 9日(月)

午後**5**コース

6月10日(火)

午前**2**コース

午後**3**コース

6月11日(水)

午前**4**コース

以 上

自動車検査独立行政法人
関東検査部 山梨事務所

検査機器校正に伴う検査コースの閉鎖について

平素は、当協会の業務運営につきまして格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、当事務所の検査機器が年に一度の校正の時期となりました。利用者の皆様には大変ご迷惑をお掛けいたしますが、当日は下記時間で閉鎖いたしますのでご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

実施日及びコース

6月13日（金）2番コース

閉鎖時間 13:00～16:00

以上
軽自動車検査協会 山梨事務所